

株式会社 F I T S



住所：仙台市青葉区一番町1-1-31 山口ビル4F
 TEL：022-395-9015
 E-mail：back-office@fits-inc.jp
 URL：https://www.fits-inc.jp/
 資本金：6000千円 / 従業員数：16名
 事業内容◆システム設計・開発の受託
 ・組み込みソフトウェア
 ・WEBシステム・Androidアプリケーション等



取組みの概要

- ・以前より導入予定であったテレワークを導入し、全社員を対象にテレワークを導入した。実務の状況に応じて約7割の社員がテレワークを継続しており、そのうちの半数がフルリモートワークを実施している。
- ・業務効率化に必要な情報伝達の精度・スピードをあげる研修とビジネスコミュニケーションに関する研修を社員2名が受講。

テレワーク導入状況

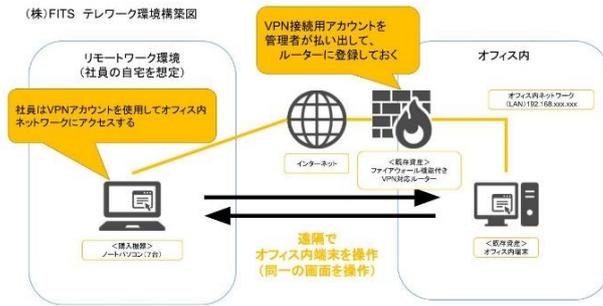
- ・**テレワーク実施人数** ①R3.1月現在実施人数：10名（社員の約7割） ②最大実施人数（R2.5月）：10名（社員の約7割）
 ③新型コロナウイルス感染症前の実施人数：1名
- ・**導入部署（最大導入時）**：開発部・管理本部
- ・**システム方式** ■リモートデスクトップ方式 □仮想デスクトップ方式 ■クラウド型アプリ方式 □安全ファイル持出方式
 □ファイル持出方式（ネットドライブやVPN経由持出） □その他（ ）
 ※参考資料：（一社）日本テレワーク協会「テレワーク関連ツール一覧第5版」（PDFファイル：1.40MB）

テレワーク導入時の課題と解決方法

- ・PC等の機材不足：以前から使用しているPCではスペックも数も不足していた為、必要なスペックのPCとVPNクライアントを新規で購入した。
- ・社員間の交流減少：以前より導入していたコミュニケーションツール「Slack」を活用し、チャットにて社員同士で相談や雑談ができる環境作りをした。
- ・就業規則の改定：テレワークを導入するにあたり柔軟な働き方を社員に推進する為、同時にスーパーフレックス制度を導入した。

活用した機器・ツール・ソフト等

- ・PC21台（うち7台新規購入）
- ・ウィルスバスタービジネスセキュリティサービス
- ・人事労務フリー（プロフェッショナルプラン）
- ・会計フリー（ベーシックプラン）
- ・VPNルーター（YAMAHARTX830）
- ・KING OF TIME
- ・クラウドサイン
- ・GitHub
- ・G Suite Basic
- ・ヘッドセット
- ・Office 365
- ・Slack
- ・BitLocker



実施した効果及び課題

○テレワーク

【効果】

- ・通勤時間削減
- ・柔軟な労働（家族の看病、急な用事などに対応可能）
- ・本当に必要なコミュニケーションの意識
- ・感染症対策
- ・災害などに対する事業継続性の向上

【課題（解決方法）】

- ・稼働時間、残業時間が管理しづらい
 →ビデオ会議システムとリモート勤怠システムで捕捉し、最終的には作業者の自主性に任せている。
 残業についてはスーパーフレックスと固定残業を導入し、深夜対応や休日出勤など一部の勤怠のみを許可制としている
- ・チーム内での協力が取りづらい
 →オンラインミーティング、分報、TODOリストの書き出し、チームごとのコアタイムの設定などをお願いしている
- ・ツールや運用に不慣れな点がある
 →最初から全てをきっちり決めるのではなく、ツールそのものの選定や運用の改善を前提とした上で、運用をアップデートしている。
- ・雑談など対面でのコミュニケーションが減る、クローズドなコミュニケーションとなる
 →チャットツールで雑談専用チャンネルを設ける他、業務に関係のない雑談を許可している。業務連絡は1:1を避け、第三者を加えた場でのやり取りを推奨している。

○オンライン研修

【効果】

- ・Slackなど、文章でコミュニケーションをとる際に、簡潔でわかりやすく情報を伝えられるようになった。

【課題】

- ・今回受講した社員は中堅社員であったが、その他の若年層の社員にも共通認識を持たせる必要性を感じた。

経営者のコメント

【テレワークを始める前の考えなど】

- ・そもそも従来の働き方は非生産的かつ非効率的（特に通勤や無駄な会議など）な為、テレワークの導入は生産性の向上にメリットが有る。

【テレワーク実施後の感想など】

- ・通勤などの生産性を妨げる要素、口頭指示など業務記録が残らずスケール化しない要素、割り込みなどの集中を阻害する要素がそれぞれ減り、生産性が向上した。

【テレワークを導入する際のコツ、ポイント等】

- ・昨今のコロナ禍もあり感染対策としての効果がピックアップされがちだが、本来は生産性や生活品質の向上に寄与する施策（感染症への効果はその側面に過ぎない）であり、労働者側にもセルフマネジメントが求められる、という意識づけをしっかりと行った上で導入を進めたほうが良い。

社員のコメント

- ・以前よりチャットでのコミュニケーションを習慣としていたのでコミュニケーションの壁はあまり感じなかった。事前に文章でのコミュニケーションに慣れることはテレワークを実施する上で重要だと感じた。
- ・自宅からも勤務が可能のため、プライベートでの急な用事などにも対応しやすくなった。ライフワークバランスをとりやすくなった。
- ・自宅の回線だとながりにくい時間帯が発生したりと各々の環境によって仕事のしやすさにばらつきがあった。